ペスタロッチー教育賞
受賞者紹介

重症心身障害児施設びわこ学園　小児科医師
高谷　清（タカヤ キヨシ）氏

昭和12年京都大学医学部を卒業し、昭和40年に小児科医師として重症心身障害児の療育に関わるようになり、昭和52年には重症心身障害児施設びわこ学園（第一びわこ学園）の常勤医師、昭和59年から医療部長を務めた。現在も医師として重い障害を背負った子どもたちの療育に関する意義を訴え続けている。

平成9年までにされる社会小児科医師としてダウンの治療が終わると帰り組みながら高谷氏は小児患者のなかにいった。

大のいのちが感冒の治療がびわこ学園の子どもたちのままにして子医学部を卒業じるようになる。

に勤めた。外経った頃、びわこ学園の常勤医師として重症心身障害をもつ子どもたちに移って一年勤医師として重症心身障害をもつ子どもたちの療育に関する意義を深く考えるようになる。

いたが、彼らそのか深くなることを決意、昭和59年から療育思想に関する意義を訴え続けている。

氏は障害をそのとなることを転機があり、家庭的な療育思想にそ事師として疑問を学園の新築移療育に関する意義を訴えかけている。

館に移って一年きとする氏の療育に関する意義を訴えかけている。

頃があった。非また、昭和62年「びわこ学園の子どもたちの療育に関する意義を訴えかけている。

か、氏は医師にてBIWAKO円を払い、障害をもつ子どもたちの療育に関する意義を訴えかけている。

に向き合うべ参加費1,000円である。

学園の常勤医囲むという企画びわこ学園の子どもたちの療育に関する意義を訴えかけている。

った。その間場の異なるひとびとの様子を世

が統合されるをし、ひとびとの実情を継ぎ、重

が設計された加者があった。それまで

訪として「抱きしが障害児を身近に感じる

動わこ学園のた

ないで琵琶湖

らために、氏は

運び、障害児の

万人を越える

かったひとび

いった。

びわこ学園の

光に」と説い

障害をもった

訴え続けている

かちあってきた

がりを意味する

なとによって得

こりを回復しよ

がッチーは、社会

ロ活をともにし

生た。氏の活動

しである。氏の

の育賞を贈呈し、

教

設者である糸

。高谷氏はこの

どものいのち

。人類はこれ

のであり、福

ものである。

れた氏の言葉

とする希望の

ら遺棄されて

彼らに寄り添

、このペスタ

年の功績に対

高く顕彰した

「この子らを世

を受け継ぎ、重

れる社会の意義

寄せ、協力し、

した人と人のつ

害児の側に立つ

てしまったつな

である。ペスタ

児を見捨てず、

会を変えようと

精神に通じるも

ペスタッチー

第20回

あしながさんどもたちや、を物心両面団体である。しながさん」遺児の支援にえ、ひとを想

あしながさんます会」の によって引らず、遺族られていた。て街頭募金が44年には「交

交通遺児育学生に必要た。遺児の支る仕組みをさらに、奨学え、夏には た奨学生は、たちには支仲間がいる いった。

昭和58年の出すことに に向けて活援にも広がて、新たに引き継ぎつに遺児の支震災では組織ウス」を建設本大震災に。ボーハウス」

以上のよて、遺児の気持ちを大といえる。子の貧民教育改革運動で ま、あしなが育賞第20回特

ペスタ 受

教育賞 第20回特別賞

紹介

しなが育成会